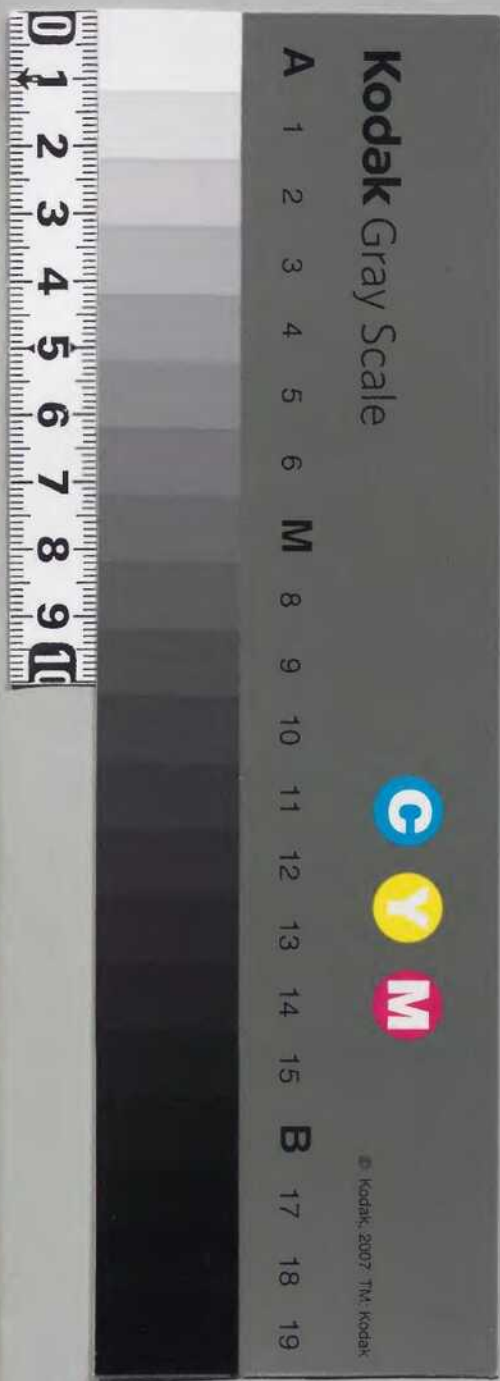


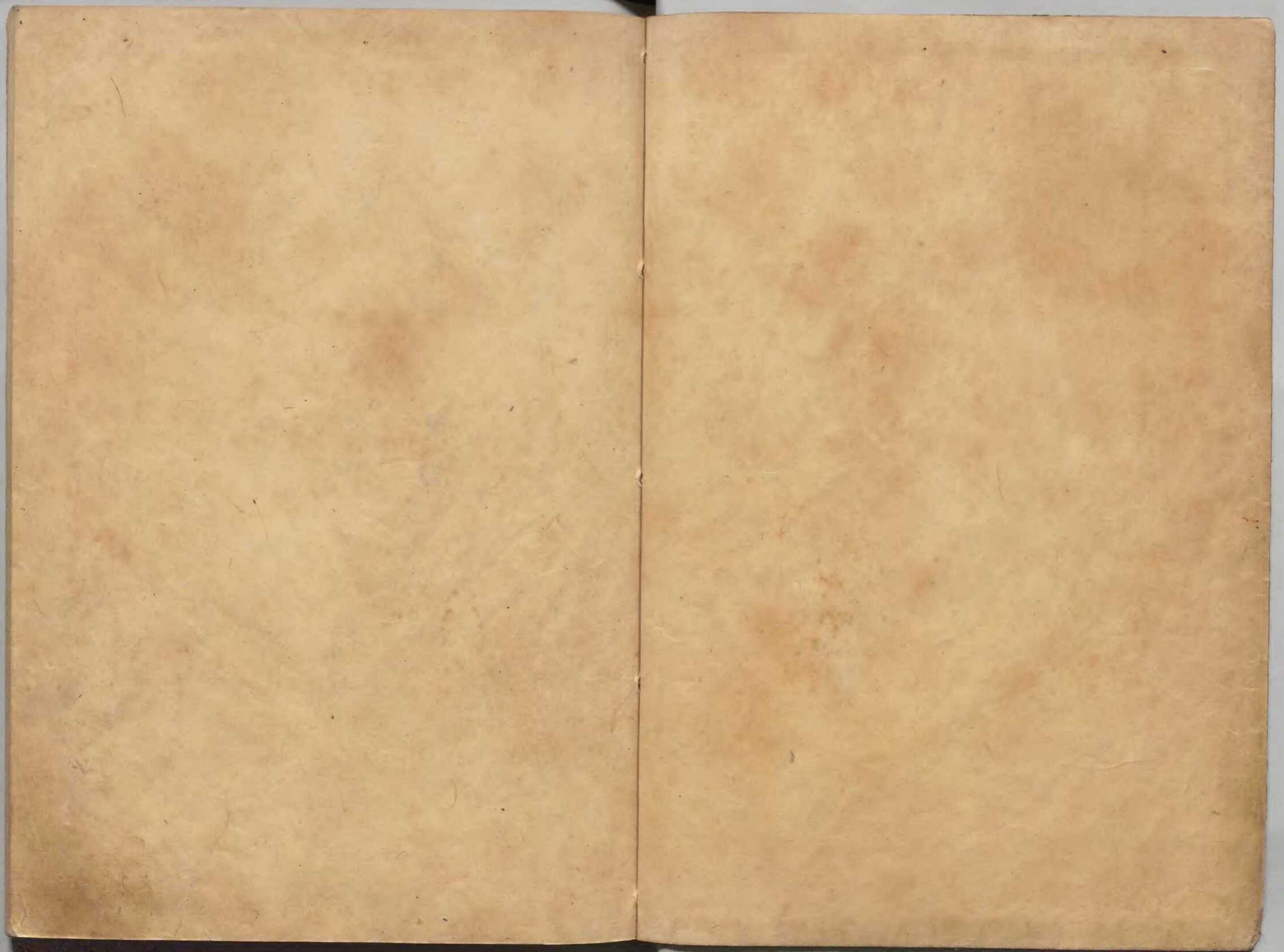
119

寛永諸家譜

藤原氏癸亥五冊之内六
交流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (119)
函號	特 76 1





右田
苜田
河田

難波田
細田
柴田

權田
田口
重田

稲田
杵田
持田

指田
奥田

寛永諸家系圖傳

藤原氏
癸六

文流

右田

● 重則

吉富尉 生必素濃

豊后秀吉

天正七年八月播州三木乃我場

淺草文庫

といて死し歳辛一 法石道乾
道号为天

重勝

後五位下 兵部少将 生国同家
天正十八年小田原陣の時秀吉を
志し
文禄元年朝敵陣とけし
陣の時 敵ありて勢利松坂乃城

を守来地三万五千石と願じ
秀吉又小田原陣の時 雲坂城
より同必津城へ又百石の援兵を
く又敵軍と挑戦志をく 志と
抽かりかゆり

東照大権現二万石とく又し後り
却命五萬石と願ふ

同八年

大権現乃命とけしり江州

作和山城普請とけしむ

月十一年江戸石垣普請とけしむ

同年六月十六日小卒し、年七歳

法名道運 乃号天閑寺号 因泰

は時重恒指しけり、のれが地し

大権現重勝が才重作し命し重恒

相代て重勝が家督とけしむ

うきまふ

重忠

生母同家

考者なりしに、考教し、此ふ

元和元年六月七日大坂陣に戦

死し、年十八歳 法名玄霜 道号

右剣

重直

生國山城

名陸院殿

將軍家より此へより

重政

共九郎 生田茂茂

將軍家よりつとて

領地も百石とつとて

重弘

平三郎 孫州より内

寛永三年三月十一日

將軍家より湯へ

同日年法書院を

同日七年法小姓組の番とつとて

今御名を番とつとて

重作

後又位下 大膳大吏 生田茂茂

東照大権現

法書院殿より此へより

享長十二年 後府乃御城普徳
とほし

日十三年 中村伯耆守卒
伯州 米子乃城
とほし

日十七年

大権現の位とけり尾州
於古屋の城普徳とほし
日十九年 江戸御西丸乃普徳と

とほし

大坂交度に御博よ佐奉

元和三年 稲葉淡路守城州

田丸とありとてりら田丸の

城番とほし

日め石列濱田にりて地

五萬石をり又丹波とて

又平石とあり

日九年 又月

名徳院殿（ごうとくいん）の御（ご）孫（まご）重恒（しげ）子（こ）

姪（まへ）重恒（しげ）子（こ）重勝（しげかつ）の家督（けとく）をつか

し、幼く（わか）隠居（かくま）し、此（この）時（とき）重恒（しげ）子（こ）十八

歳（とし）なり

寛永二年十一月廿五日（かんえいにねんじゅういちげつにじゅうごにち）卒（す）

四十八歳 法名道輝（だうき） 屋号（やごう）

古山（ふるやま）

女子

六部（むく）少輔（せうぶ）重恒（しげ）子（こ）書（が）

重恒（しげ）子（こ）

後五位下（ごごいげ） 六部（むく）少輔（せうぶ） 生（な）正山（せいざん）城（じょう）

元和九年（げんわくねん）二月

名徳院殿（ごうとくいん）の命（いのち）ありて亡（な）父（ふ）重勝（しげかつ）

り遺（い）産（さん）承地（じやうぢ）五万（ごまん）又（また）子（こ）を（を）領（りやう）と

寛永元年（かんえいげんねん）同日（このひ）年（ねん）大坂（おさか）石垣（いしがき）

普（ふ）濟（じ）と（と）し（し）ひ（ひ）年（ねん）友（とも）友（とも）あり

月九年

將軍家より白銀五百枚とらり

日十年堀尾山城守卒し

とも二宮列 松江の城番とつて

日十二年 江戸石垣善徳と勤

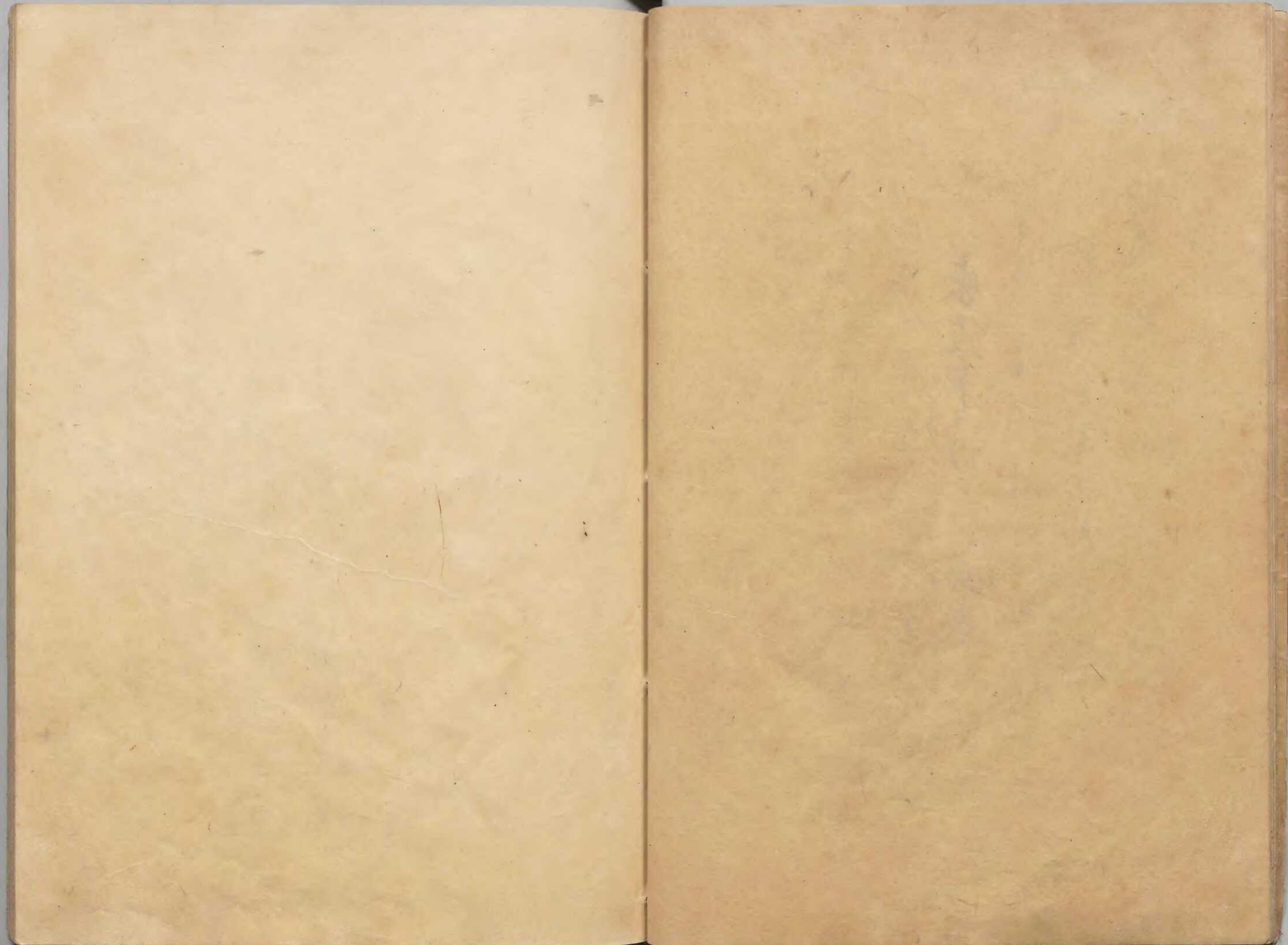
日十四年 衣掛を授かる卒

してのらまゝ二宮列 松江乃城

友とけと

家紋

丸門三列兩



蔭田

● 廣光

後又佐下 相模与尾刈織津と生所

とくは光の織田信長との麾下にあり

そつらりて秀吉とつふ

文禄元年二月廿二日卒以六十

三歳 法名 宗右

廣定 ひろさだ

後又位下

さかしののんのしげ
たぬの控下

生國同前

とく先を秀吉の麾下にありては

東照大権現

台漣院殿

將軍家より流人となりつる

寛永十三年八月二十三日に平次

年六十六 法名日見 もちけん

定正 さだまさ

後又位下

かんげんのし
玄番殿

生國山城 まゝら

大権現

台漣院殿

將軍家より流人となりつる

寛永十七年十二月廿九日に平次 まゝら

榮又十

法名日照 もちてる

長廣 ながひろ

数る助 かずさけ

生國孫津

大権現

右通院殿

將軍家より侍人ありまは

廣則 ひろのり

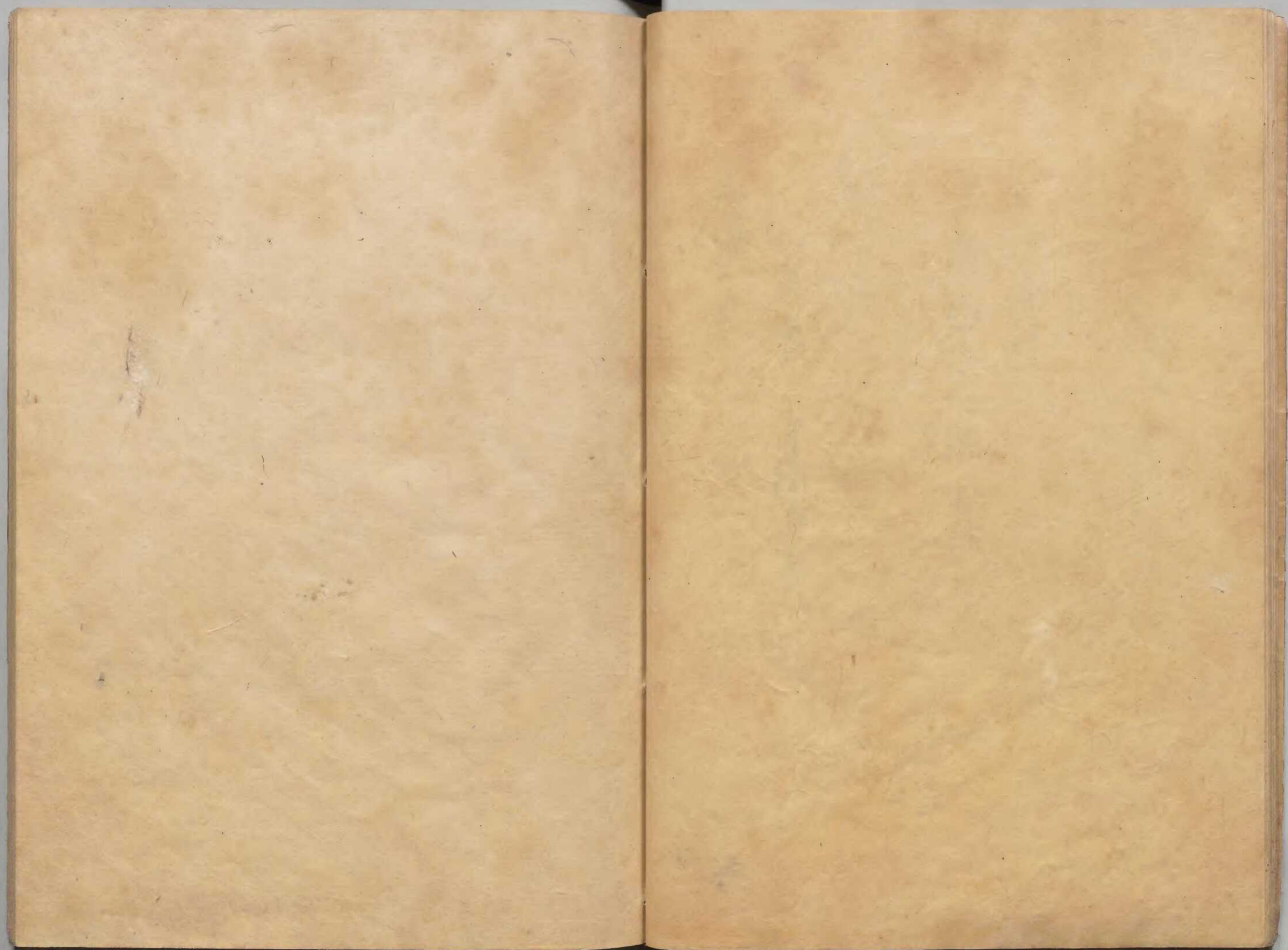
久太郎 生國孫津 いさ

將軍家より侍人ありまは

定則 さだのり

八十郎 生國孫津

家紋 八曜子持筋 やっとうしもち



● 恭親

河田

伯耆守 生國を以

上杉謙信をらびて景虎とて

正六年信州河田庄合戦の時

先手とありて軍を以てけり

らばしよりて景虎感状とさつ

河内郡の城とありく小原氏政も

保元書とあり

上州新田より丸山よりとありてを

とありゆるといふはりともあり

その他と焼くもいふにあり

保元書とあり

同十八年死す

東照大権現より人あり

文禄二年六十三歳とあり

政親

物部 生國とあり

文禄元年十歳とあり

大権現

名徳院殿より人あり

関原陣大坂あまの法陣とあり

その

將軍家より人あり

寛永十三年五月廿七歳少して死す

親重ちかひ

半助

生國いづくに長彦

元和三年十月廿歳の時ふ然と死す

將軍家につくえまつり御小姓ごこせい

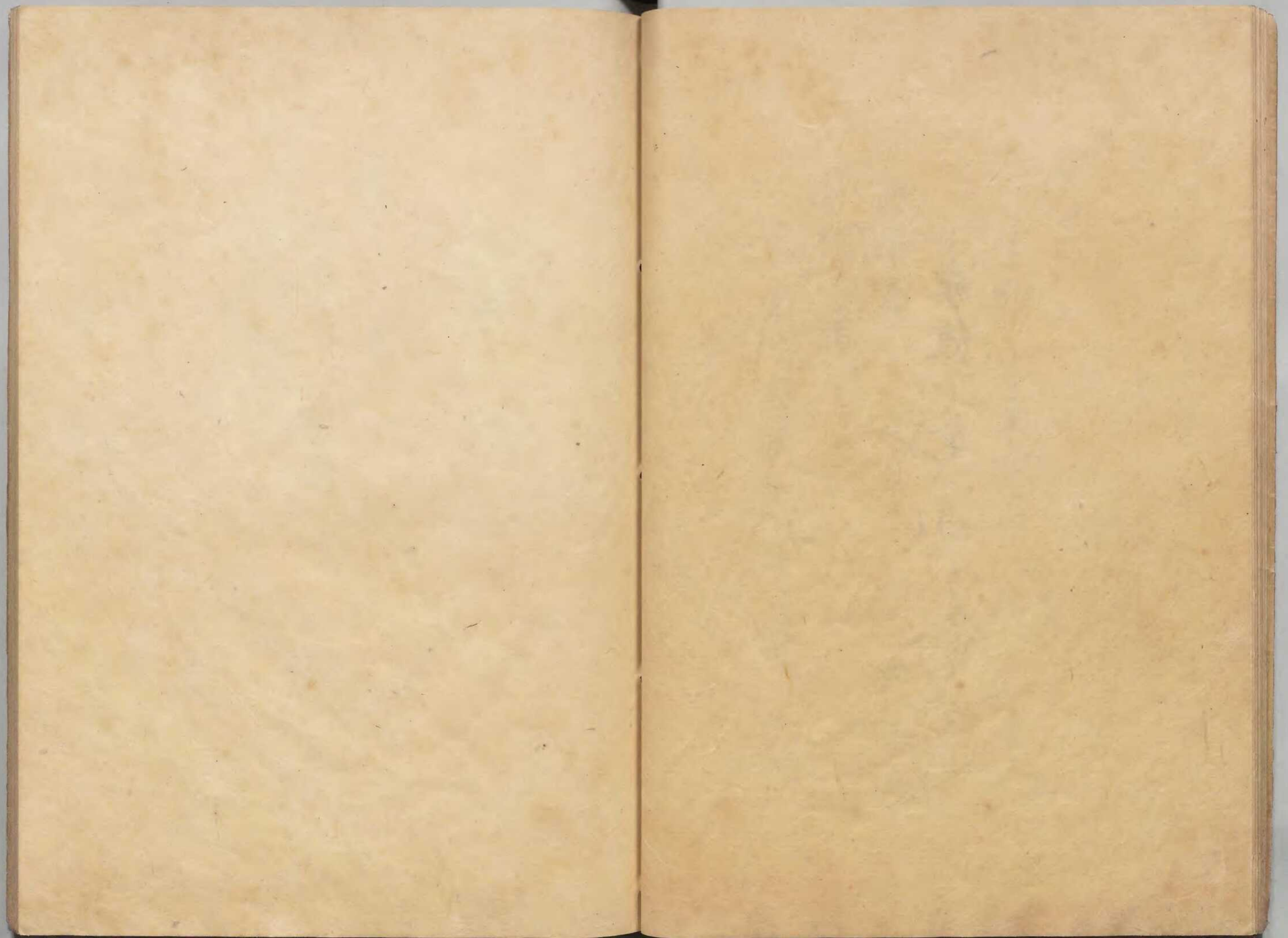
継乃つぐの番とけし

寛永十五年より大御番おほごばんの継从ついで

光みつ次つぎ

家紋

菴あまの内うち木き札ふし



川田

● 菓

六郎ろくろう

女に國くに三さん河が

法は名な鉄てつ牛ぎゅう

清せい康こう君きみくく法は名な鉄てつ牛ぎゅう

菓

六郎ろくろう

生せい國くに同どう家か

東照大権現より侍人等々

交長三年九月十七日一死

法名 閑心

貞次

六郎集 生母 同前

大権現

名法院教より侍人等々

寛永元年二月六日六十三歳

一て死す 法名 増味

貞則

若菜 生國 氏彦

元和三年十一月十日より

將軍家より侍人等々

寛永六年九月八日小十人の継次

中村

家級

波なみノの葉はノの龜かめ

那波田

● 憲書

彈正 中 國 氏 系

上 牧 後 領 一 人 氏 列 松 山 の 城 代 と 行 々

憲次

因幡 氏 列 松 山 一 氏 系

上田暗礮^{カニシキ}とつふ暗礮^{カニシキ}没落^{モチラク}の夜
城^{シロ}列^{レツ}洗^{セン}滅^{メイ}といひて死^シと

憲利^{のり}

若^ニ長^{ナガ}衛^ヱ射^セ生^{ナマ}國^{クニ}氏^{ウヂ}秀^{ヒデ}

文^{ぶん}祿^{ろく}元^{げん}年^{ねん}免^{めん}死^しと

東^{とう}照^{しょう}大^{だい}権^{けん}現^{げん}と福^{ふく}と

名^な法^{ぽう}院^{いん}殿^{でん}

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けと死^しと

寛^{かん}永^{えい}十^{じゅう}二^に年^{ねん}と死^しと六^{ろく}十^{じゅう}二^に歳^{さい}

憲名^{のり}

大^{だい}廓^{くわく}共^{きょう}清^{せい}射^せ 生^{なま}國^{くに}氏^{うぢ}家^け

寛^{かん}永^{えい}二^に年^{ねん}十^{じゅう}月^{げつ}

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けと死^しと

安^あ信^{しん}栲^{こう}津^{しん}也^やが

大^{だい}沖^{しゅう}也^やと

同^{どう}十^{じゅう}年^{ねん}會^{かい}邑^{いふ}と

憲長

長尾憲尉 生國日記

寛永十五年

將軍家へ福へまはり亡父憲利が

傳禄の由りをして糧米とつら

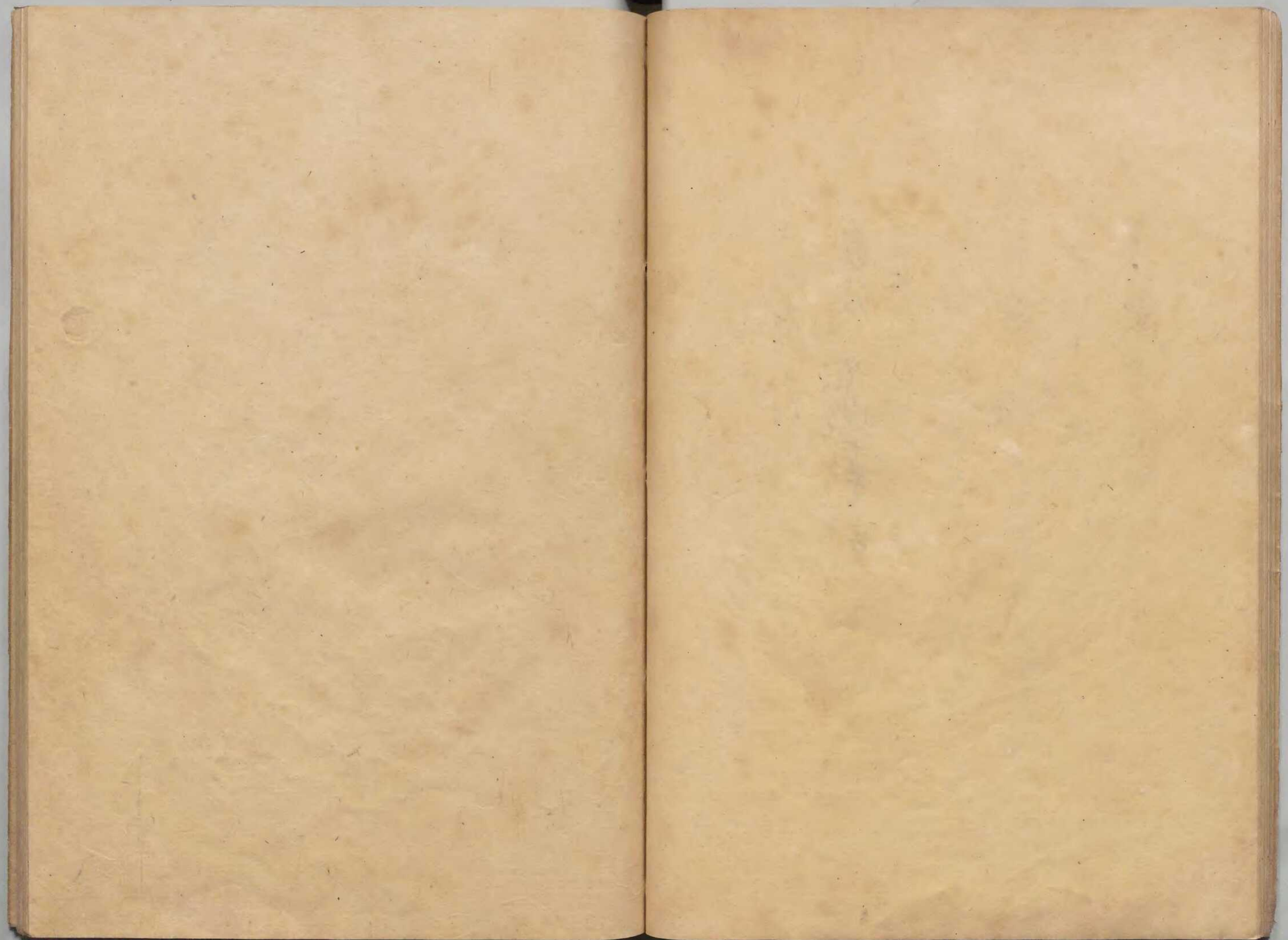
きとせふ

月十六年安信持は守り継ぎ別て

大御番とせしむ

家紋

丸内十字字



● 康勝マコト

細田ホシノ

加右衛門尉 生國ナニクニ越前エチノ

淡松ワタマツ一ヒトとして

东照大権現を拜イハヒしをそそぐりつつ

天正十八年テンシ関東関東御入御入成成ののときとき流流すす

とてと終終江江戸戸一ヒトとしてとして死死すす

康政

清菴

生國尾張

大権現より清菴へ書くまづ紙

元和八年正月二十三日丑十三家

少くは紙と

康次

清菴

生國長菴

寛文十年

台徳院殿より湯より紙二つり後

將軍家より清菴へ書くまづ紙

豊利

五島右衛門尉

生國田舎

寛永十二年十一月廿九日

將軍家より清菴へ書くまづ紙

家紋

藤丸ふじのまるのしらしら

卍

細田はやし

● 正時しょうじ

勘三かんざう 中國ちゆうこく 甲斐かい

喪田むらた 依玄よげん かつふかつふ ともとも にに 山縣やまがた 三さん 石いし 共ども 承しょう 承しょう 承しょう

与力よりき と ちん

天正十年てんしゅうじゅうねん 甲州かうしゅう 一いち 社しゃ の 夜よ

東照大権現とうしょうだいこんげん よよ 下した おお されされ 井い 俣のり 共ども 社しゃ の 宿しゆく

重時より
重政より属せしむ

同十八年小田原陣乃とて

蓮池より討死 法名石丸

重時

物右衛門

法名日秋

生國同前

正討死の時こいしつけをふして

甲州よりつら大久保石丸身

より依列しつらとて勅定せしむ

とて

重時

小笠原

生國同前

名法院敷

將軍家よりつらとて

寛永十七年二月より死す法名日圓

成時 なりとき

小長清

生必武彦 いさ

しげ重時

が

姪

の

子

たり

の

孫

が

母

む

こ

成

時

を

り

て

志

と

し

家紋

藤丸

内

小

卍

柴田あしば

● 正重ただしげ

之藤よかえん 生國まに 近江おみ

東照大権現

台迹院殿たいせきいん 之の 所ところ 之の 所ところ 之の 所ところ

交まじ 長なが 二に 年ねん 十じゅう 一いち 月げつ 一いち 日にち 死し 之の 日ひ 十じゅう

又また 柴しば 法はふ 名な 月げつ 録ろく

正衣まぎらぎ

侍右衛門尉えん

生田遠江おん

大権現

名徳院殿

將軍家より侍人となりしなり

寛永十七年六十歳より死す

法名真雲えん

正信まぎらぎ

四郎左衛門尉

生田長茂おん

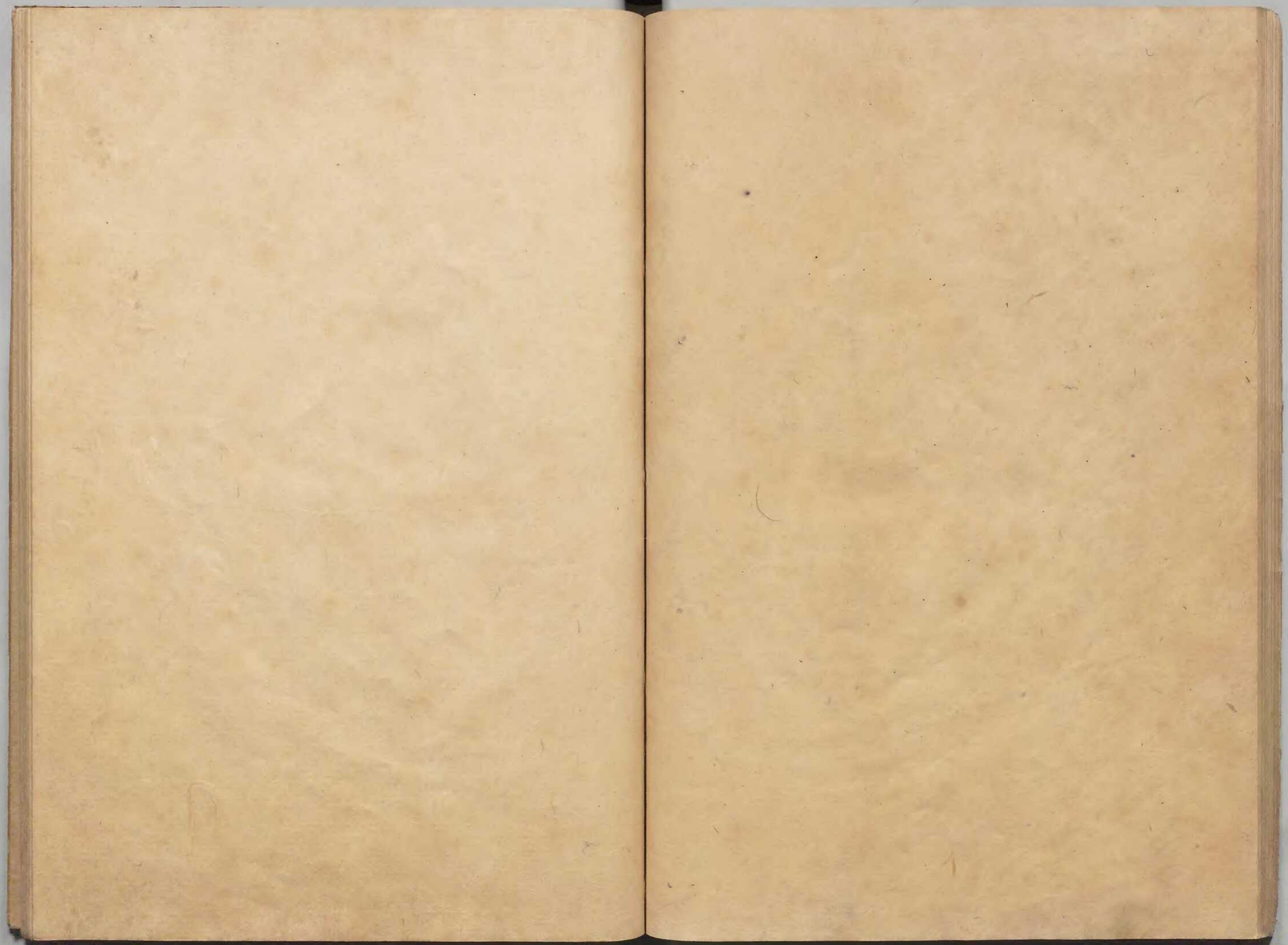
寛永六年

將軍家とおしりてまつり

同七年大法番おんと侍心

家紋

丸門まののら下菴丸さしあがのまのら



● 泰長 アキチカ

権田 ケンデン

藏部依 サウベノヨ

生國遠江 ナマクニト

永祿十二年 エイロクニニニシツネ 幸列塘江乃城 コトウツリノシロ

ありとこ アリトコ 中領 ナカネ を ヲ まよ マヨ 言 イハ ふ

御書 ミガキ ありに ニ あり アリ 然 シカドモ ち チ 然 シカドモ ち チ

東照大権現 トウショウダイケンゲン と ト 言 イハ へ ヘ たり タリ ます マス

天正十八年小田原滅亡の役
明かり御鉄炮足利十人とあつる
乃ら釣命よりいへるを急乃
沙代友とほりこころ
文禄四年七十日家少にて死す
以名常量

恭清

小次郎 生國同前

永禄十二年父恭長と相討り
死す

大権現よりいへるなり
文禄四年三十八歳にて死す
法名常儀

恭成

平大丈 生國同前
名徳院殿

將軍家へはけえりてり伏見
 乃御番はけいじ又海邊山城を
 よらりて御番とけいじは内籠
 とくえりてり
 え和元年大坂陣のときも本
 自多正が継り居り伏見とけいじ
 御陣のときも又領地とくえりてり
 寛永七年十月七家少く花とけいじ
 清分

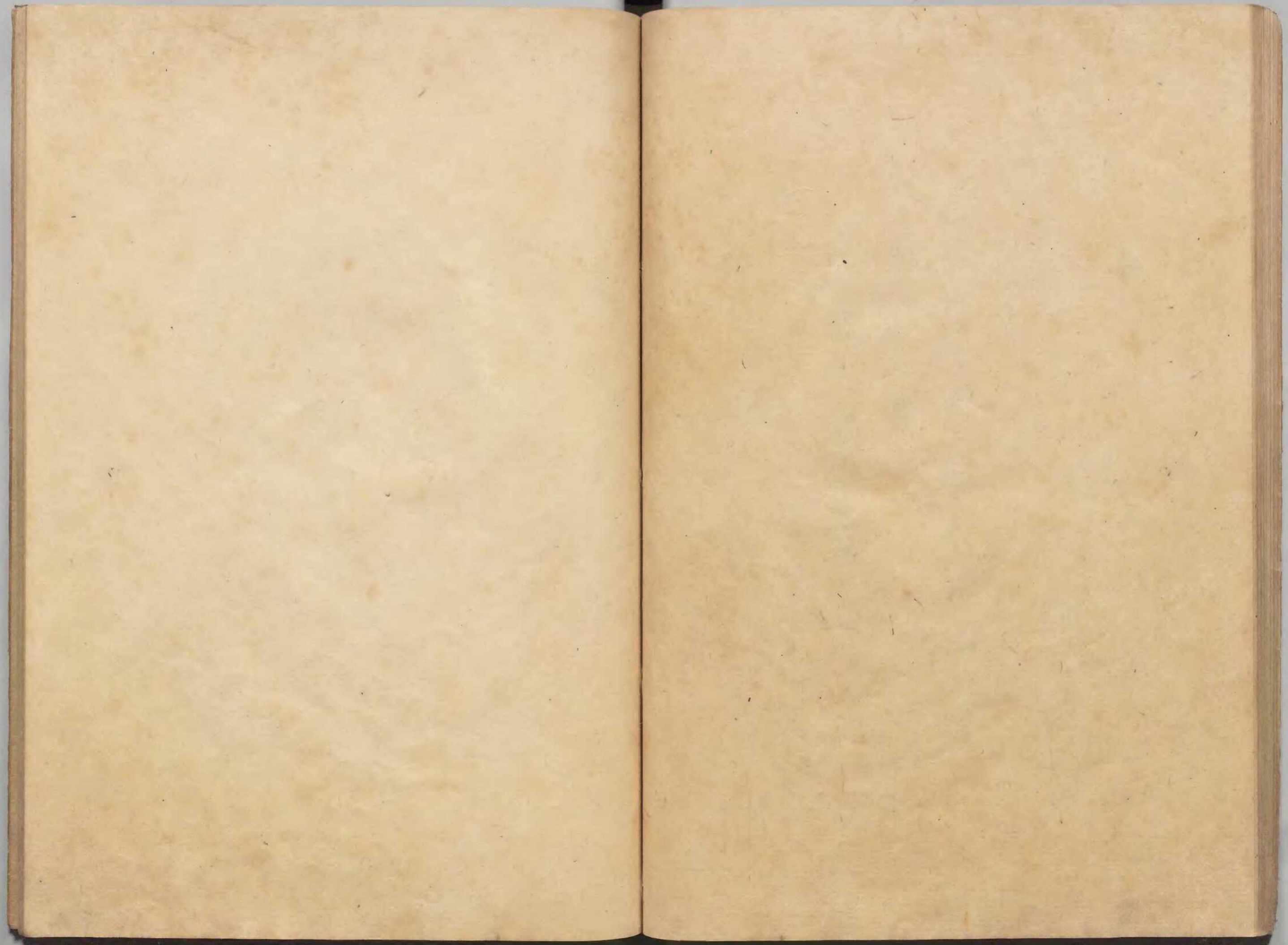
泰朝

小十郎 生國長秀

寛永五年

將軍家へはけいじとけいじ

家紋 鶴丸



田口

● 吉利

伊豆守

吉壁右衛門大直

小條氏政作義重と合戦の時

安平をいさむ下野の國攝務乃

城と攻削 吉利 義重と 法名道玄

長勝ちやうしやう

玄番げんぱん元げん

父ちち長利ちやうりととおおかかななくく長壁ちやうへき氏うぢつつふふ

法ほふ石いし良らう瑞ずい

長次ちやうじ

七しち右みぎ衛ゑ門かど常じやう州しゆ長壁ちやうへき郡ぐん生なまるる

くくわわハハ長壁ちやうへき道みち云いふふくく長久ちやうきう

ととななめめさされれて

長徳院殿ちやうとくゐんゐんりり長ちやう久きうつつ

寛永六年けんゑい六年

将軍家しやうぐんけくく長ちやう久きうつつ

幕まくら後ご巴ゑ

越こし後ごのの長尾ちやうび孫まご信のぶ関せき東とうとと長ちやう向むかひのの

水みづくくここ長ちやう主ぬし長壁ちやうへきとと長ちやう久きうつつ

とまと小山家やを次ついでが幕紋まのえを乃の
ううとくとくともとも友ともとといいああううここめん
事ことととふふああれれりりららりりてて幕まくら乃の
ととうう一ひと幅はらみ思おもひひととししひひちちかりかり

重田しげの

● 守國もりくに

肉防にくぼう 生國なまくに 仁濃にのう

芦田あしだ 下野しもとの 守もり 右みぎ 大出おほいで

つみ

天正十年

東照大権現甲こうしゅう 新府しんぷ 御進ごしん 後ご の

別荘大矢見澤乃山小屋
義之にといく歌六東西より
かこむの地新府の通海つくり
御より守國山中乃間乃とゆえ
使しゆ事三交たり終し歌と
相殺と討死と内一軍三案あり

守秀

庄在東の尉 生國同安

芦田修理大矢みづびし右末の太史
いつふ右末の太史滅元しとつ
守秀舊切ある地しとつ
大権規りしゆえそまつ
文仁六年関原陣りし依也
元和三年二月十八日七十一歳
死

守光

物之丞 生國伝濃

戸田俊理大吏のぶらふなすいよ右の大吏
つとみ甲州新府御陣のぶらふ
先守秀とたなのぶらふ忠のぶらふ心と抽ぬき代
わらふがゆへりのぶらふ免ぬきされぬき

大権規のぶらふつとみのぶらふ
文七のぶらふ年関原陣のぶらふ一のぶらふ位のぶらふ守のぶらふ
元和二年六月十九日死のぶらふ時のぶらふ
六十七歳

守久のぶらふ

長共のぶらふ清尉 生國のぶらふ同前

右徳院教のぶらふ一のぶらふ位のぶらふ守のぶらふ
大坂のぶらふ西のぶらふの御陣のぶらふ一のぶらふ位のぶらふ守のぶらふ
一のぶらふ位のぶらふ守のぶらふ

將軍家のぶらふ一のぶらふ位のぶらふ守のぶらふ

守儀のぶらふ

左近のぶらふ 生國のぶらふ同前

菅田隆理大丈あしごもりをいびく大藏おほくらの大丈
一あしごもりつふ先守秀さきもりひでとあまりくあれて

大権現おほごんげんといはれるはなりつら

慶長けicho五年ごねん關原陣せきがはらといはれるはなり

のら

名護院なごいん殿のりといはれるはなり

大坂おさか交まいの御陣ごじんといはれるはなり

守定もりさだ

化ま六む未射みせ 生な必かな同家どうけ

將軍しやうぐん家けといはれるはなり

守真もりまこと

江え外がわ 生な國くに同家どうけ

名護院なごいん殿のりといはれるはなり

大坂おさか交まいの御陣ごじんといはれるはなり

寛永けんえい六年ごねん乙月おつぎ乙日おつひ死しといはれるはなり

あしごもり

守忠 もりただ

江外 えがい

生國上姫 なまくにの上ひめ

將軍家よりつとめさへくもる

家紋

丸の内井桁 まるのいけ

正時

稲田

森屋

生田尾張

神左織田信長と清久坂を信秀若

日秀頼と清久

享長十五年六月八日六十歳

一ノ系止

正勝 まさかつ

嘉永 生國回舟

秀頼 ひでより 一つふ

元和元年大坂落城の役八月廿日

絶えねし

東照大権現より こゝろ 祈禱せしむる

台法院殿

將軍家より一つふをきくまふ

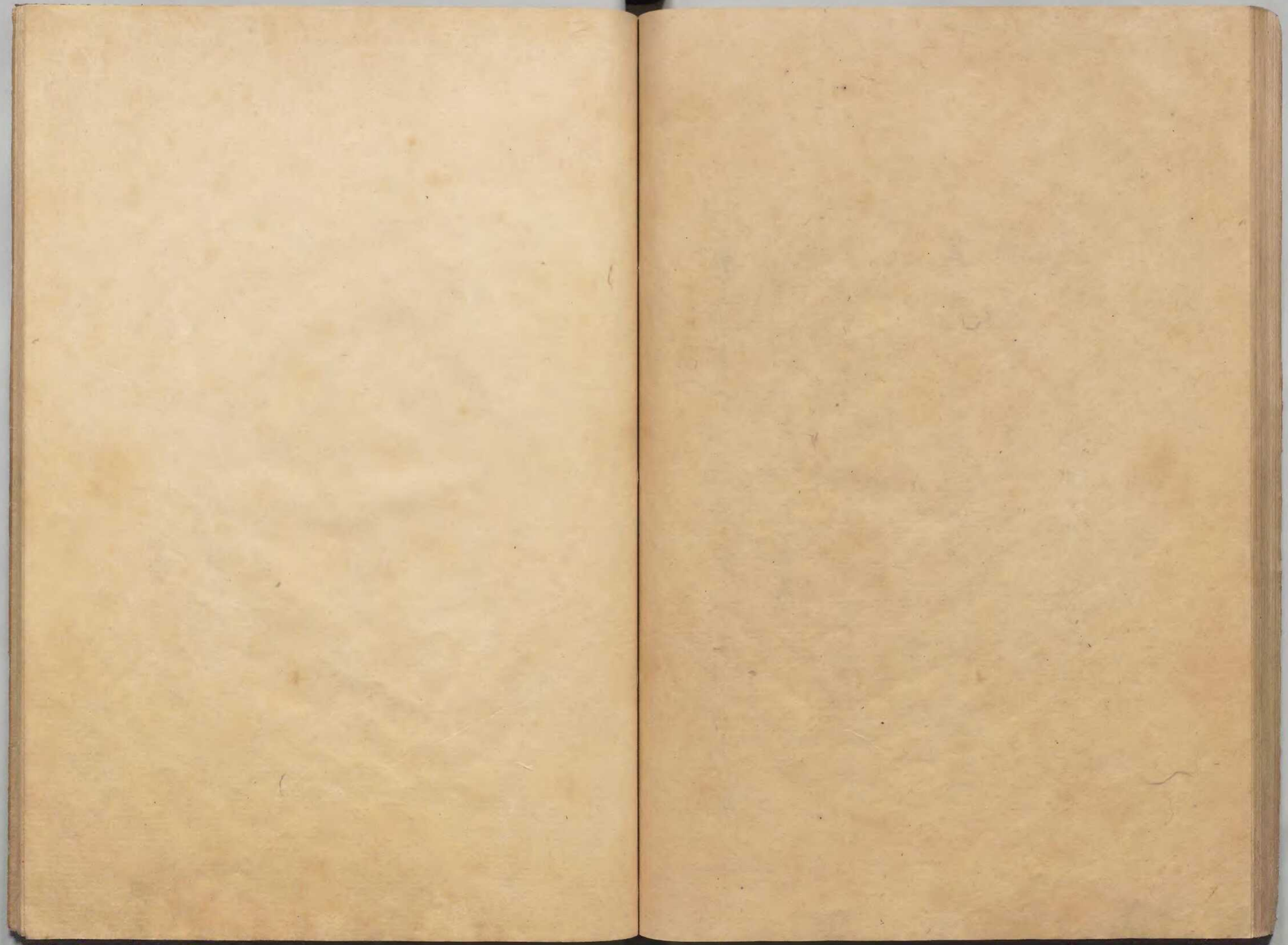
正信 まさのぶ

嘉永 生國山城 まごころ

寛永十一

將軍家より一つふをきくまふ

家紋 月兔 うさぎ



松田まつだ

友政ともまさ

新あらた兵衛尉 生國三郎

東照大権現とうしょうだいこんげん之御のみ久ひさ之の子こ三さん郎らう

友政ともまさ

童わらわ石いし全ぜん治ぢ師し 新あらた兵衛尉 生國三郎

少年少年より

大権現大権現よりいふ事なり

大権現の御御姫姫君君萬生萬生能能強強ささ秀秀行行し

嫁嫁ししぬぬままふふとともも 約約命命ににいいりりて

右右政政法法姫姫君君ととももいいふふ事事なりなり

秀秀行行しし属属しし秀秀行行逝逝去去のの後後ささい

浅浅野野但但守守長長成成しし嫁嫁ししぬぬままふふとともも

右右政政亦亦法法姫姫君君ととももいいふふ事事なりなり

廣廣治治ししてて死死しし七七十十歳歳 法法名名とともも西西

重政重政

九共湯射

生國山城生國山城

少年少年のの時時下下野野守守忠忠名名とともも

ははふ

右右政政所所ににいいふふ事事なりなり

政政之之子子形形りり政政之之刺刺殺殺ししてて作作店店

水水号号にに

大権現大権現のの方方とともも采采地地ととななりり

城列字作り一語に
政之り文竹唐城列一筆致三列り
を毛むき

大権規一法久くくまのり

慶長五年関原陣の事

八月朔日伏見松丸といふ討死

四十九案一法名西谷家紋丸門三枚

寛永五年十一月十五日重政ウレテ

名述院教と孫徳と

● 忠重

秋田

加古清尉

生國近江

法名浄源

涉井下野古りしはふ

忠重

加古末尉

生國同前

忠次

浅井下野守しげふみ
元龜三冬もとき下野守卒しげふみ一しげふみて後
信人のぶひとと相子あいに七十八歳しちじゅうはちさい歿し
死しと 法石浄林はふしじやうりん

九郎兵衛尉

中園同家

孝臣こゝし秀次ひでつぐ一しげふみて後のち大久保石見守おおくわいしげみにあり

そのら終しげふみ

東照大権現

名徳院殿

將軍家しげふみ一しげふみて後のち

六十六歳むそくじゅうろくさい歿し

直次

六之助 生なま玉たま日前ひる

寛永かんゑい十年七月

將軍家ノ福ヨクノ事コトノ由ユヲ
所トコロ動ユ定ル乃ハ後ノチをシ行ハ心ヲ

家紋 霧乃丸キリノマル

● 忠久

持田

左馬助

生國義秀

武州源氏松則

七十二歳少く死す 法名道隆

忠長

右の助 生國同前

と秋没落の枝菱すがぬま派こいぞいぞん小大膳つ子

安七七年小大膳死して枝や

いづれ

東照大権現あつ福ふく一いちつそり川

忠ちか入御城番ごんと信のぶと心こころそのら

名法院教しやうり信のぶと心こころそのら

六十日歳少く死す 法名ほうな若わか若わか河

忠重

又長門 生國同前

寛永十年

將軍家しやうぐんり信のぶと心こころそのら

同十七年どうしちしちねんり信のぶと心こころそのら

伊賀いげの番ばんと信のぶと心こころ

家紋

丸ま菱ま

指田さし

久い後う

新あら大た昂う
廣ひろ忠ちゆうつつ
生なま玉たま三さん河が
一いち子こ一いち子こ

久い次じ

源みな共とも清きよ尉ゑい
生なま玉たま三さん河が

少子より

東照大権現より流人となりつゝ
元和三年乙未八月七日七十に歳を
死す 法名道西

延久

源右衛門尉 生國同安

寛永六年十二月十日

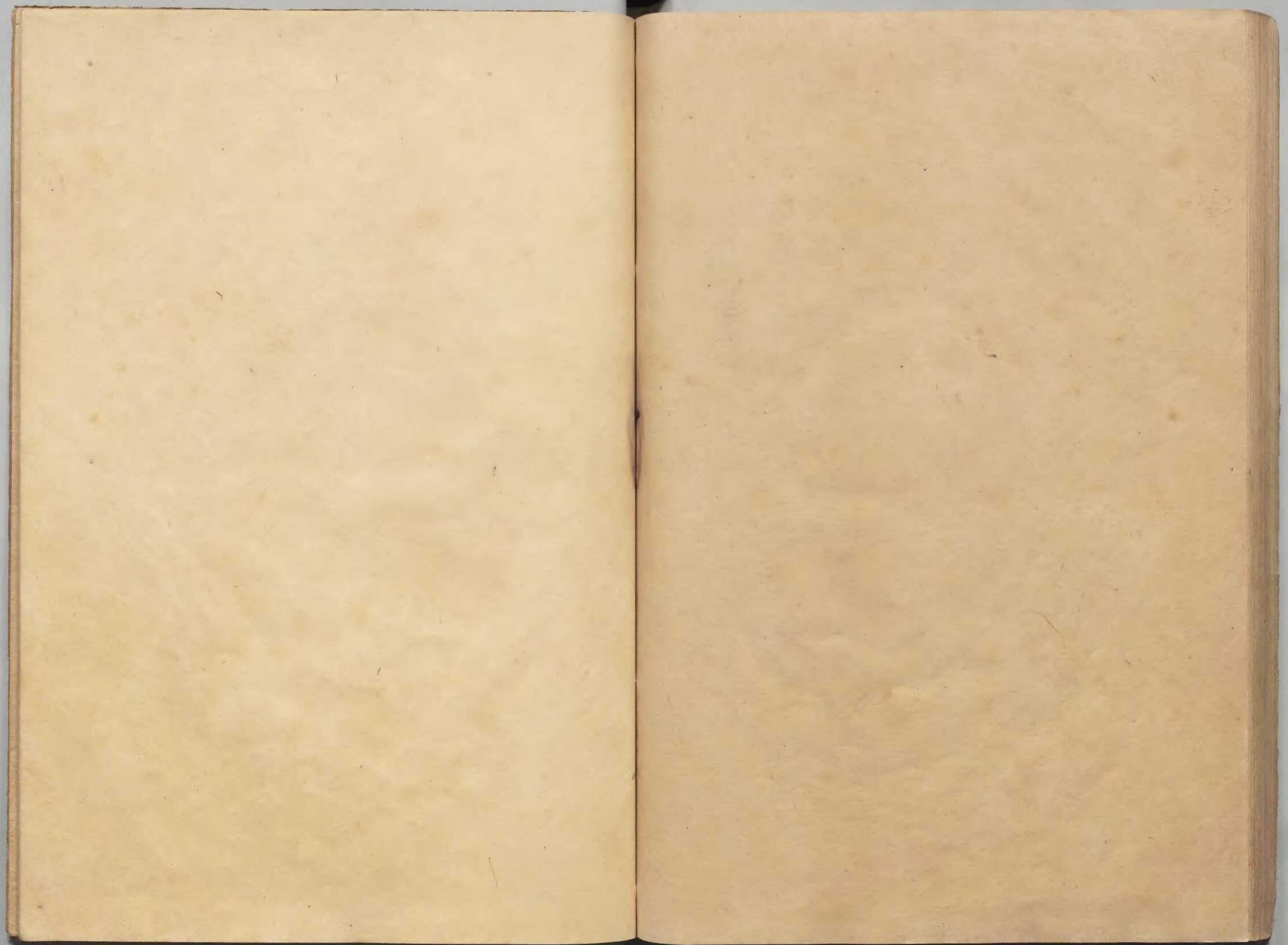
名法院殿より流人となりつゝ

同八年正月

為軍家より流人となりつゝ

家紋

丸内三葉柏



奥田おくた

● 忠ちか言こと

冬ふゆ河の守り 中な玉たま山やま城じやう

初はつをを李り永なが彈だま正ただ一いつ一いつ人ひと救す交こ我わ

場ば少すく軍ぐん切きりありわはがが地ち

彈だま正ただ或あるハハ女に引ひくくこことと方は此こ小こ子こ

ととららららてて出いれれとと廢わ或あるハハ引ひくく

持定こゝろ此 ち力をあててこれと
賞しとあ給代こゝろいほふこゝろ
を信秀をこゝろつふ

孝文長久年

東照大権現関原沖田陣の及忠意
軍切とすこゝろ一 此入
るそ戸所系へこの作あ致し
より江州大津とていして祀て存
るそとすこゝろ 八十歳とて死し

忠次

三郎右衛門尉 生國山城

二十九歳乃おとすこゝろたさるが速治とす

大権現より 信人こゝろりし

孝文長十九年大坂陣此信人

所おこ

翌年大坂陣又月六日道の寺

必分こゝろとて我死に百十二歳

忠一

半若衛尉 生玉回安

十三歳少く右次が家督と云ふ

城列りといふ

大権現と称礼と云ふ

名法院殿

為軍家と云ふ之を云ふ

三十日歳と云ふて死す

忠虎

半若衛尉 生田茂秀

十三歳と云ふ

將軍家と云ふと云ふ

家紋

丸内横二川

